

秋まき小麦の幼穂形成期は間もなく！

～幼穂形成期の作業は山盛り～

圃場での生育差はあるものの、本年の幼穂形成期は平年並の5月1日頃迎える予定となっております。2回目の追肥については幼穂形成期から5～10日までには実施しましょう。

また、起生期追肥を実施していない場合は、葉色がさめる前に幼穂形成期分の追肥を行いましょう。

○「きたほなみ」の茎数に応じた追肥量の目安

茎数 (本/m ²)	窒素追肥量(kg/10a)	
	起生期	幼穂形成期
1,000本以上	0	6
800～1,000本	2	4
800本未満	6	4

サイコセルPROを打ちましょう！

茎数に応じて倒伏軽減剤（植物成長調整剤）の施用を検討し、準備しましょう。

○倒伏軽減剤（植物成長調整剤）について

薬剤名	使用時期	10a当たり		使用回数	判断時期と茎数の目安
		薬量・倍率	散布水量		
サイコセルPRO	幼穂形成期	150～200mL	100L	1回	幼穂形成期
	出穂前20～10日 小麦の草丈40～60cm	200～300mL	100L	1回	節間伸長盛期 草丈40～60cm頃

注1) サイコセルは高温時の散布で薬害が生じることがありますので、夕方に散布しましょう。

注2) 倒伏軽減剤（植物成長調整剤）は他の薬剤とは混用せず、重複散布にならないよう十分注意しましょう。

注3) 散布時期が遅れると効果が劣りますので、遅れないように注意しましょう。

連作圃場は必ず散布を！（秋まき小麦の眼紋病防除について）

昨年多くの圃場で眼紋病に罹病し倒伏しました。特に小麦連作圃場では眼紋病の発生が危惧されますので、適期を逃すことなく防除を実施しましょう。

○眼紋病に効果のある薬剤について

薬剤名	使用時期	10a当たり		備考
		処理濃度	散布液量	
ユニックス顆粒水和剤47	幼穂形成期	500～700倍	100～150	連作圃場では必ず散布する。
カンタスドライフロアブル		1500倍	60～150	

※

○管内防除実施率（※R4実績）第2弾！

・防除対象病虫害：【眼紋病】

項目	高収量者（製品反収9.5俵/10a）	低収量者（製品反収2.5俵/10a）
実施率	64%	33%
使用時期	4月24日 ～ 5月10日	—
散布水量	100L・・・100%	100L・・・100%